

1. 目的 ○校内で火災が発生した場合を想定し、
 ①教職員が子どもの安全を第一とした行動ができるようにする。
 ②避難場所に、安全かつ迅速に移動し、避難場所で静かに待つことができるようにする。
 ③教員間で的確に役割分担を決め、組織的に迅速に行動できるようにする。
 ○緊急時の行動の仕方を学び、安全な行動ができるようにし、防犯に対する危機意識を育む。
2. 日時 **6月24日(土)** ①10:40 ②12:45 ③15:40 ※雨天の場合 (7月1日)
 ○事前準備 担当者は、6月17日、24日朝に非常階段を下り、危険がないか確かめる。危険があればホワイトボードで注意を促す。
 ○事前指導 6月17日(土)に児童生徒に事前指導を行う。避難訓練予定日は伝えない。各クラスで指導(火災避難経路と集合場所、不審者対応避難場所、緊急時の行動の仕方)
 ○反省会 6月24日(土) 13:20~13:35 (①②) 16:15~16:30 (③)
 ○事前指導 6月17日(土)に児童生徒に事前指導を行う。避難訓練予定日は伝えない。
 ○不審者対応指導 7月1日(土) 避難場所、緊急時の行動の仕方
3. 参加 全校児童・生徒および全教職員と校舎にいる保護者、関係者
 ① 幼1(11)、小1-1(11)、小2-1(11)、小3-1(18)、小4-1(15)、小5-1(7)、小6-1(8)、中1(11)、中3-1(4) 計96名
 ② 幼2(12)、国際中学(7)、小1-2(6)、小2-2(7)、小3-2(7)、小4-2(6)、小5-2(7)、小6-2(7)、中2(6) 計65名
 ③ 国際高学(14)、中3-2(5)、高等部(4) 計23名
4. 設定: 校舎 階(スイス 階) 家庭科室より火災発生
 5. 避難場所: 体育館用具室前
 6. 事前指導: 各クラス担任が指導

火災発生時の基本行動

- ① アラームが鳴ったら、ドアを開けて放送が聞き取れるようにする。
- ② 放送を静かに最後まで聞いて、避難経路・避難場所を確認する。
- ② 原則として、荷物は持たずに避難させる。(事前に指導する)
- ③ ハンカチまたは洋服の袖等または付近の帽子で口と鼻に当てるよう指示し、煙を吸わせないようにする。
- ④ 別の手を前に伸ばして、前の人に当たらないように間をあけて避難させる。
- ⑤ 煙が出ている場合は、外に出るまで身を低くし避難させる。
- ⑥ 廊下、階段では、おはしも「押さない、走らない、しゃべらない、戻らない」を励行させる。校舎外ではかけ足で行動し、戻らないことも指導する。ただし幼稚部や低学年児童と高学年児童生徒が同時に走るとぶつかり転倒する危険があるので、コンクリートは早足、芝生はかけ足ということを事前指導する。
- ⑥ 階段、非常階段を下りる際、火災時は視界が悪くなる可能性があるため**手すり、もしくは壁を手で触りながら歩いて下りる**。(ポケットに手を入れない。)←職員は、避難時に声かけを行い転倒防止を図る。
- ⑧ 体育館用具室前に、並んで座る。

火災時避難場所

火元が建物正面玄関側の場合→非常階段、裏口階段より避難→①体育館用具室前、②校庭りんごの木の横（避難場所）

火元が建物体育館側・体育館付近→③正面玄関側の階段より避難→校舎横公園 民家前（避難場所）

集合場所で整列

- ①前習え、その場にしゃがむ。私語はしない。説明している人の話を静かに聞く。
- ②説明の際には、立って大きな声で話す。

校内に不審者が侵入したときの注意

- ①放送で「安全教室に避難してください。」と聞いたら「おはしも」でパニックルームに集まる
- ②絶対に忘れ物をとりに戻らない。
- ③先生と一緒にパニックルームに入り、中から施錠する。
- ④気持ちを落ち着けて、先生の指示をよく聞く。
- ⑤大声を出したり、大きな物音を立てたりしない。
- ④身を低くして、物陰や机の下などに隠れる。ドア、窓から離れる。
- ⑤警察→教師の指示があるまで静かに待機する。

不審者と思われる人物がいたら・・・

- ①不審者をにらみつけたり、じっと見たりしない。
- ②不審者が驚くような急な動作をしない。
(状況に応じて判断。教師と子どもとでも対処の動作に差があり)
- ③不審者からできるだけ遠ざかる。(隠れる)
- ④不審者がいることを、近くの先生や友達に知らせる。
- ⑤先生の指示に従い、速やかに安全な場所に避難する。

運悪く、不審者に捕らえられてしまったら・・・

- ①犯人は刃物や銃を持っていることが十分に考えられるので犯人の指示に従う。
- ②犯人の気持ちを落ち着かせるようにし、抵抗したり、大声を出したりしない。
- ③犯人をにらみつけたり、じっとみたりしない。
- ④犯人の特徴（人相、髪型、体、声など）を危険のない範囲でつかむようにする。
- ⑤必ず救出されることを信じて、我慢強く待つ。

学校外、一人で不審者に会ったことも想定し、「いか・の・お・す・し」を覚えさせる。

「いか」・・・知らない人に声をかけられても、ついて「いか」ない。

「の」・・・知らない人の車には、ぜったい「の」らない。

「お」・・・こまったら「お」おきな声で助けをよぶ。

「す」・・・その場から「す」ぐにげる。

「し」・・・近くのおとなに「し」らせる。

避難場所パニックルーム 窓からの侵入を考えた上で、いちばん侵入に時間がかかる場所。

- ・ 階 → (10)、10
- ・ 階 → 20、20
- ・ 校庭・体育館→体育館 室（放送が聞こえないため、必要に応じて携帯電話を持参して連絡する。

アラームが鳴ったら

- ・ 静かにして座る。（体育館も同様）
- ・ 先生の指示を聞く。

ロックダウンの手順

- ①教師は教室を消灯する。
- ②児童は気持ちを落ち着けて、先生の指示をよく聞く。
- ③教師は避難教室に児童生徒を避難させる。
- ④教師は、避難教室の窓・ドアを施錠する。
- ⑤児童生徒は、机の下等に身を隠す。
- ⑥物音を一切立てない。
(大声を出して危険を回避する場合もある。あくまで状況に応じて判断する)

7. 放送機器と防犯アラーム

※ は毎朝、電話を取って音を確認し、通話可能かを確認する。

①訓練開始 防犯アラーム鳴らす。

不審者が明らかに刃物等を所持している場合は、アラーム作動前か同時に警察に一報を入れる。

②防犯アラームを鳴らしたら、必ず電話に出て、訓練であることを伝える。（パスワードをきかれる）

※防犯アラーム後、警備会社からはすぐに電話がかかってくるが、かかってこなければ、かける。防犯アラーム後、警備会社からは、学校固定電話→学校携帯電話 B→（携帯電話）の順にかかってくる。※連絡が取れない場合は、警察が出動。

③アラームを解除する。

○各時間帯の児童生徒が、アラームの音を聞いて避難する目的で、実際にアラームを作動させる。

※音が鳴らなかった場合、校内放送で代用する。（は、放送機器付近の防犯ベルがなるか定期的に確認する。）

○速やかに静かに非難する訓練を行う。

使い方

アラーム

- ・ 引っかかりをやさしく引く（強く引くと壊れる）。
- ・ 1～2秒後に鳴り始める。
- ・ しばらくしてから解除。

放送機器

- ・ スイッチを入れ、音量を7にし、ボタンを押しながら使用する。

不審者避難解除後の集合場所

「体育館用具室前（ドッジボールコート）」

小雨の場合も→体育館用具室前軒下。強い雨の場合→体育館（靴のまま入ってよい）。

8. 当日の流れ

時程	活動内容	担当、留意点○
①10:40	1.①②③火災発生	A 通報係
②12:45		① ② ③
③15:40	2. A 通報係	
	(1)火元確認後、速やかに C と 室や周辺にいる職員に伝える。	B 初期消火2階
	(2) B と C と共に消化活動を行う。	見回り係
	(3)初期消化→失敗→アラームを作動させる。しばらくして止める。	① ② ③
	(4) 警備会社からの電話対応→今回は訓練であることを伝える。	
	(5) 運営委員長、全日校校長、大使館に電話(当日→訓練ではしない)	C 連絡係
	(6) 携帯電話と、コピー紙棚にある在籍名簿を持ち職員室を施錠する。	① ② ③
	(7) 階校舎(スイス 階)トイレを確認し、表口階段より避難する。	
	(8) C の隣で在籍者名簿に印をつける。	D 2階補助教
	C 連絡係	員
	(1) アラーム後、非常事態を放送	①
	「避難訓練です。ただいま、階、家庭室から火災が発生しました。児童と保護者は全員、体育館	②
	、用具室前に、避難してください。非常階段、裏口より避難してください。繰り返します。児童と保	③1
	護者は全員、非常階段、裏口を使って、体育館用具室前に、避難してください。」	2
	※的確にゆっくり放送する。	3
	(2)レターボックス脇の緊急マニュアルファイルと携帯電話を持ち出し、職員室を施錠して正面	4
	玄関から避難する。	5
	(3)避難場所で待機する児童の指導にあたり、避難場所で人員点呼の報告を受ける。	
	B 初期消火 階見回り係 (不審者対応では強化扉をロック)	
	(1) (ストップウォッチをスタート)	
	(2) A と B と共に消火活動を行う。	
	(3)トイレに残留者がいないことを確認し、職員室にある拡声器を持ち、正面階段より避難する。	
	(4)非常階段下に立ち、降りてくる児童を誘導し避難させる	
	教室担任	
	3.(1)アラーム音を確認した教員は、教室ドアを少し開け、放送が聞こえるようにする。	
	(2)火災の場合、協力して速やかに窓を閉め、ドアを開けたままにする。	
	階20 教室担任	
	4.① ② ③ は、放送後、カーテンを外し、教員を先頭に3階、非常階段より避難する。避難場	
	所に到着後、体育館を見回り C に報告する。	
	階担任 階児童生徒は全員非常階段より避難する。	
	階見回り担任 (不審者対応では強化扉をロック)	
	① ② ③ は、放送後、クラスの生徒を① ② ③ に預け(預けた教員に人数を伝える)保護者	
	の協力を得て、階校舎トイレ、窓を閉め、図書室を含む全教室に残留者がいないことを確	
	認し、非常階段より避難する。	
	階担任	
	①・・・②・・・は放送後、教員を先頭に 階裏口階段より避難する。	
	D 階補助教	
	(1) 全教室に残留者がいないことを確認し、階園児児童の最終尾に付いて裏口より避難し、	
	裏口を閉める。保護者や校庭で遊んでいる児童生徒がいれば声をかける。(低学年が非常階段を下りるのは危険を伴うので、後ろに教員がいたほうがよいため。)	
	(2) 避難場所で待機する児童・生徒の指導にあたる。	

<p>5. (1)集合場所には到着したクラス順に整列、前習え、しゃがむ (2)担任は児童・生徒の無事を確認し、Cに報告し、Aが名簿か避難経路図に記載する。 「〇年〇組、□名、異常ありません。」 (3)全員いなければ、担任は他の教員に必ず声をかけ、人数を知らせてから対処する。</p> <p>6. 全体指導 (1)校長より講評 ※以下、人数が多い場合は拡声器を使用する。 (2)児童・生徒代表クラスが基本行動の説明 避難について→「お・は・し・も」 (3)担当者「児童生徒は、先生といっしょに教室に戻りましょう。」</p> <p>7. 基本行動の説明 (①中3-1②中2③国際高学年)</p>	代表クラス: ① 中3年1組 ② 中2年 ③国際高学年
---	--------------------------------------

9. 職員が警察を呼ぶとき

<p>警察電話番号 117. 消防署 118.</p> <p>①防犯アラームを鳴らす。</p> <p>②警備会社から電話がかかる。</p> <p>ドイツ語 Japanese Schule Uster. (ヤパーニツシェ シューレ ウスター) Bitte kommen Sie schnell! (ビッテ コメン ズィー シュネル!) Bitte schnell! (ビッテ シュネル!) Einbrecher (Terroristen)!</p> <p>英語 This is Japanese school in Uster. Please help us immediately (soon)!</p>

10. 緊急時対応 (不審者) 基本マニュアル

緊急事態発生



現場個別対応

・授業者、近くの大人が児童生徒の安全確保
※ 臨機応変な対応



<p>保護の優先順位 ※サービス規程より</p> <p>①児童・生徒の生命・身体の保護 ②教職員の生命・身体の保護 ③学校財産の保護</p>

組織対応

<p>【連絡班】 校長：運営委員長 大使館 文科省へ 校長・教頭・事務：保護者へ連絡 事務(教員)：警察通報 救急車要請</p>	<p>【避難誘導班】 各クラス担任</p>	<p>【記録班】 避難訓練係、教頭 【救護班】 事務、()</p>
--	-----------------------------------	--

<p>【連絡の内容】 考えられる、学校から連絡する必要のある諸機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 警察通報、場合によって、医療諸機関への協力要請、救急車の待機要請、全日制校長・教頭への応援要請 ☆ 第一報 大使館 文科省 運営委員長へ (事実の伝達、以後の連絡法確認) ☆ 保護者へ事件事実の連絡 ☆ 場合によって、医療諸機関への協力要請、救急車の待機要請 ☆ 第二報 大使館、文科省、運営委員長へ (経過報告、児童生徒の下校等協議) ☆ 第三報 大使館、文科省、運営委員長へ (下校完了、人質の安否、犯人動向について報告) ☆ 第四報 大使館、文科省、運営委員長へ (事件解決報告、翌日以降の対応について協議) ☆ 保護者へ解決報告、翌日以降の対応の連絡

【不審者対応避難基本原則】

- ・児童・生徒の安全確保を優先しながら、警察へ連絡（連絡者が重複する場合もある）
- ・校庭にいる場合は体育館男子更衣室に避難する。
- ・職員は日頃から不審者が校舎内に入らないように注意する。**敷地内に不審者と思われる人物を見つけたら、その人物が校舎に入る前に声をかける。**
- ・校舎内に入ってしまった場合は、教員同士が声を掛け合い、不審者をドアの外に出す。人物の反応が異常であれば警察に通報する。
- ・避難中に外から保護者が来ても、強化扉・体育館扉は開けない。（中の児童生徒を守るという意図で）

【心構え】

- ・体育館に避難後、情報がなく状況がわからない場合、ほとぼりが冷めるまで待つか、周りの状況を見て自分の判断で別の安全な場所に逃げる。
- ・教員が状況を見に行く際、子どもは、隠れたまま待っている。

11.その他

- (1) 常時更新した在籍名簿をコピー紙のある棚に用意しておく。（事務）
- (2) 在籍名簿に鉛筆を入れておく。（避難訓練担当）
- (3) クラスの連絡網を更新した場合、日誌ファイルと緊急ファイルのものを差し替える。（担任）
- (4) 校舎、体育館にいる**保護者（懇親会中でも）に参加を呼びかけ、原則として参加してもらう。**
- (5) 教員がお互いに避難場所の確認をする。
- (6) 病院への搬送などは、保護者をお願いするなど、状況を見て、臨機応変に対応する。
- (7) **担任は、火災が起きた際の避難経路・避難場所、体育館用具室前、芝生運動場の三か所（火元校舎家庭室など）と校舎横 公園民家前（火元体育館周辺）について、普段から児童・生徒に話しておく。**
- (8) 階の若い園児、児童を誘導する際は、**教員が前後を挟んで移動し、事故のないよう気をつける。** 階も教員が先頭で児童生徒を誘導し、**列の最後にも教員がつく。**
- (9) 16時から18時に授業がある年は、該当クラスと学習室に懐中電灯を置き、前もって電池などを確認し、すぐ手に取れる場所に移動しておく。（持ち易いように、懐中電灯にひもを付ける）
- (10) 校長・教頭が 階フロアに不在だった場合、指揮をとるのは、 階にいる教員で行う。
- (11) 補習校のパニックルームは、 階 → 10 、 室 (10)、 階 → 0 、 0 、 0 とする。
- (12) 階で授業をしているときに防犯アラームが鳴った場合、職員室からの連絡を受けるまで、使用教室からは動かない。
- (13) 階の非常階段付き教室（ 0 ）の場合は内側から鍵をかけることができないため、ロックダウンの教室にしない。
- (14) 教員もパニックルームに静かに避難して待つ。
- (15) 中にいる保護者は参加（3時間帯のうち1回は、参加）
保護者の協力及び理解がないと被害を最小限に抑えることができない。緊急時の学校の対応につき訓練又は実践を問わず、校内にいる保護者については、各教員への協力（周辺の子への対応等）を依頼する。
子どもの見本になってもらう、教職員の練習として保護者を含め、無事に避難させられるかを把握するという意図で。
懇親会のあるクラスには担任が代表に、事前に伝えて協力を得る。
- (16) 緊急マニュアルには、クラス名と人数記載の教室配置図も加えておく。
- (17) 車椅子保護者の避難は、エレベータを使わず、他の保護者に手助けを請う。
- (18) 編入生には、担任が避難場所を伝える。

12. 安全担当係 備考

- ・保護者用に掲示する避難経路図には、クラスの人数と担任名は消す。
- ・後日、火災避難訓練経路確認のため歩く。
- ・反省会で出たことは、書面で残す（大使館報告に必要）。
- ・実施後に修正し、補習校緊急マニュアルとして緊急ファイルに一式入れておく。
- ・不審者が明らかに刃物等を所持している場合、警報器作動前（又は同時）に警察に一報を入れる手順を確認する。

13. 初期消火

- ・消火器の場所（2階 家庭科室 / 3階 廊下・理科室）使い方確認

火災時対応避難避難経路／防犯アラーム・緊急時インターホン・消火器 配置図

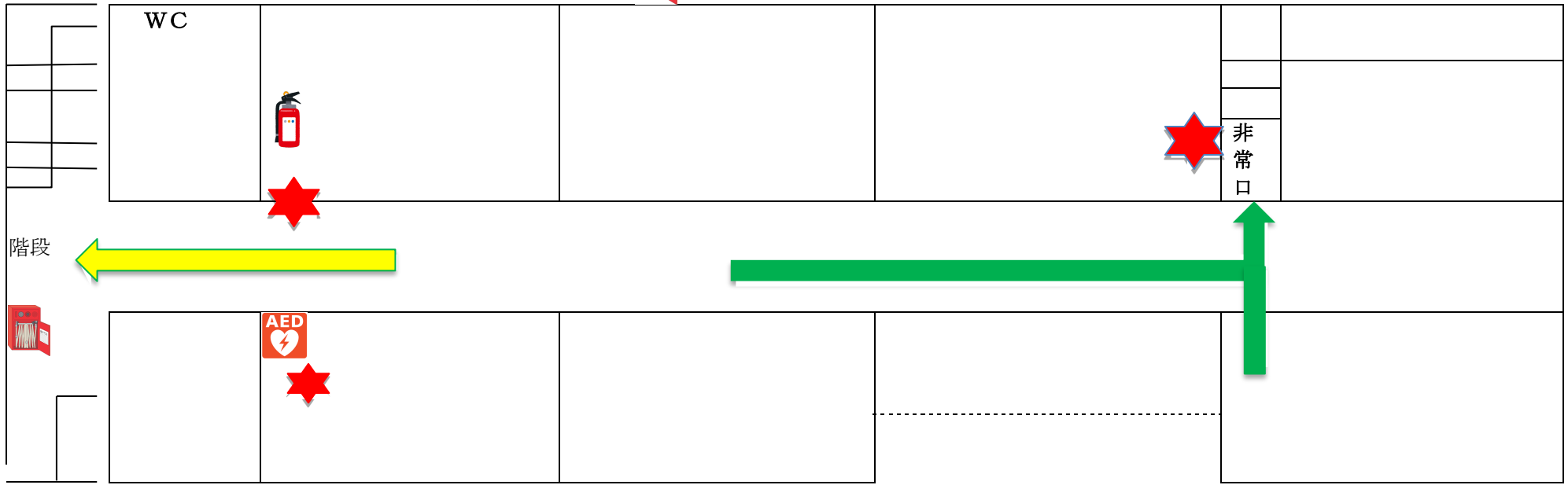
2023年度

補習校

階 (.Stock)



裏口から外へ

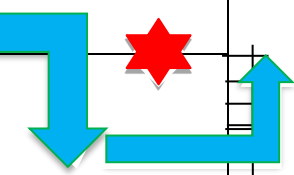


階 (.Stock)

表玄関から外へ



緊急時インターホン



非常階段

防犯アラームなど配置です。ご確認ください。